



同友しずおか

題字：遠藤 在氏 榛原支部

私の逸品

まだまだ終わらない太陽光

(株)サンアイ電工

詳細はWEBで! (三島支部)

静岡同友会

検索



静岡県経済産業部との意見交換会

「持続的に成長・発展する地域社会の実現に向けて県へ要望・提言」
組織強化・広報・情報化全国交流会in東京

「同友会・企業・地域づくりを一体として組織強化、情報発信のあり方を学ぶ」

特集

会員訪問記

西村 知浩氏 (株)ウェッジ・富士支部

三輪 雅則氏 (株)マルイチ・榛原支部

シリーズ

委員会・部会通信 伏見 修氏 (株)富士山ドリームビレッジ・障がい者問題委員会委員長

その他
主な内容

共育ち勉強会、愛知青年同友会 青全交あいち報告会 (三河会場)、支部だより、イントロセミナー、
インターンシップキックオフ会、新入会員紹介、友達の輪、自動引き落としお知らせ

平成28年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企业づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

持続的に成長・発展する地域社会の実現に向けて県へ要望・提言



8月2日(火) 静岡同友会会議室 参加31名

静岡県からは篠原経済産業部長、県理事、就業支援局長、商工業局長ら14名、同友会からは遠藤会長、藤原、知久両代表理事はじめ、山本顧問（静岡大学）、太田准教授（同）ら、17名が出席しました。



篠原 清志
経済産業部長挨拶

まず藤原代表理事と篠原経済産業部長の挨拶の後、遠藤会長から、本年6月期の会内景況調査の結果を報告。景況感は昨年暮れをピークに、局面はゆるやかな上昇から下降に入ったと語りました。

知久代表理事からは、①実効性のある静岡県中小企業振興基本条例の制定、②中小企業・小規模企業施策の一層の充実、③全県経営フォーラムへの県行政参加の3点を要望しました。今年中、静岡県では中小企業・小規模企業振興条例（仮称）の制定をめざし、パブリックコメントの募集段階に進んでいます。本県では依然、人口流出や少子化が顕著で、事業承継、人材確保難、災害リスクの問題も表面化。そのような中でも中小企業・小規模企業は、地域経済と県民の大多数

の雇用を支えていることを述べ、会員企業が経営基盤の強化や「人を生かす経営」の実践を通じて、持続的に成長・発展できる地域社会の実現が何より重要と語ると共に、実効性のある県条例制定への期待も伝えました。

自社・業界報告は、今野政策副委員長（光誠工業(株)・榛原支部）、宮本支部長（大栄工業(株)・志太支部）のお二人。先行きを見越した市場開拓、補助金制度による設備投資の受注状況などを発表しました。

その後の意見交換では、要望に掲げた県条例、人材確保策、事業承継について県から回答頂きました。また大規模災害のリスクを最小限に留めるべく、事業継続計画（BCP）の策定ができるよう、専門家の養成や派遣、年4回のBCP勉強会の開催も紹介されました。最後に井上副代表理事からは、相互に尊重しながら産・学・官の連携で意見交換ができたことへの感謝の意を語り、幕を閉じました。続けての交流会でも、本音で語りあえる雰囲気の中で開催できました。会員・行政との交流を通じて、改めて静岡県の地域経済、地域社会のさらなる発展にむけた想いを確認しあえる場となりました。

<ご参加頂いた静岡県経済産業部の皆様（敬称略）>

| | |
|-----------------------|-------|
| 経済産業部長 | 篠原 清志 |
| 静岡県理事（産業戦略担当兼新産業集積担当） | 渡辺 吉章 |
| 就業支援局長 | 伊藤 省三 |
| 商工業局長 | 大石 勝彦 |
| 商工業局技監 | 望月 一男 |
| 管理局政策監 | 長田 雅孝 |
| 商工業局商工振興課長 | 三須 敏郎 |
| 商工業局新産業集積課長 | 水口 秀樹 |
| 商工業局企業立地推進課長 | 村松 毅彦 |

| | |
|----------------------|-------|
| 商工業局商工金融課長 | 桑原 裕明 |
| 商工業局経営支援課長 | 野村 芳一 |
| 商工業局地域産業課長兼商業まちづくり室長 | 影山 敦彦 |
| 商工業局地域産業課班長 | 赤堀 鉦仁 |
| 商工業局地域産業課副班長 | 古橋 弘幸 |

<ご参加頂いた静岡大学の皆様（敬称略）>

| | |
|-------------------|-------|
| 静岡大学 名誉教授/静岡同友会顧問 | 山本 義彦 |
| 静岡大学 准教授 | 太田 隆之 |

<参加者感想>

今回、意見交換会に初めて参加させていただきました。正直行政の方々はもちろん、遠藤会長をはじめ、静岡同友会の並み居る諸先輩方の参加で始まった当初は、隣に座った今野政策副委員長と一緒に緊張のあまり、非常に居心地が悪く感じていました。しかし知久代表理事からの「持続的な成長と発展をしていく地域社会を実現していくための静岡県への要望」の発表、私と今野氏の業界動向の発表、そして一時間以上の意見交換と続く中で、当初考えていた以上に、今の静岡県の問題点やこれからの展望を理解する事が出来ました。

特に同友会からの要望や質問に行政が答える通り一辺倒な意見交換会ではなく、行政ももっと中小企業の現状の問題を認識してこれからの政策に生かしていきたいと

いう熱い想いと強い危機感を感じました。それは懇親会で行政の方々と更に深いお話をする中でも感じ、改めて以前役員研修会で教わった「無理してでも居心地の悪い場所へどんどん参加しなさい」を実践する大切さを理解する事が出来ました。

最後に私自身これまでの人生、長崎、東京、埼玉、群馬、横浜と移り住んできましたが、何とんでもここ静岡が一番好きな場所です。これからも中小企業家としてこの静岡の発展のために、今回の政策要望はもちろん、今の中小企業が抱えている「人材確保」や「事業承継」の問題についても更に勉強し、寄与していきたいと改めて感じました。

宮本 浩氏（大栄工業(株)・志太支部）

～同友会・企業・地域づくりを一体として 組織強化、情報発信のあり方を学ぶ～

8月25日(木)～26日(金) 大田区産業プラザPIO 参加160名

<参加者感想>

一泊二日で開催された交流会に、野川和三氏（㈱野村商店・榛原支部）と、事務局長外川恵子氏の3名で参加しました。いつも感じるのですが、全国交流会は、熱気にあふれた会員の集まりで、「やるっきゃない!」と、参加者に思わせるのです。

中同協設立50周年となる2019年に5万名達成を掲げ、全国で増強に取り組んでいます。広浜幹事長が、愛知同友会の事例を取り上げ、毎月40～50名の新会員が入る仕組みづくりの報告がありました。組織強化は、①活動状況の見える化、②重要方針が徹底される仕組みをつくり、自主運営による顔の見える活動を進めていく。そのために「情報化と活用」「体系的な役員研修」を徹底して行っています。その計画に対して、PDCAを廻す仕組みができているからこそ、何年も連続3ケタの純増になっています。

鹿児島同友会の事例報告は、2月の中小企業問題全国研究集会に向け、会員増強目標を立て、小グループ活動の成果を語りました。埼玉同友会の事例報告は、新支部づくりで既存の支部の心配を撥ね退け、活性化を計った話でした。バズセッションでは、各県の温度差はあるものの増強に向けた想いは、一緒であると確信しました。

<参加者感想>

藤原博美氏（㈱日本ベルト工業・代表理事）に誘われ、当交流会に参加しました。グループの人達は組織委員長、代表理事、事務局長と場違いな所に来てしまったかなと思いつつ交流会が始まりました。広浜泰久氏（中同協幹事長・中同協5万名推進・組織強化本部長）の5万名達成に向けての報告に始まり、鹿児島の会員数純増率トップの活動報告等がありました。その後、組織強化と活性化、会員増強や支部・地区づくりをどう進めるのか、



支部長一人で、50名の会員を入会させた話も聞きました。「増強は、時間とお金を使わなければ目標を達成できない!」なるほどと、納得です。懇親会のPRタイムでは野川氏が、「今期中に、1200名!達成します。」と力強く、県の方針を宣言しました。

支部役員を増強に対する意識の向上が不可欠であると思います。質か量か?と議論が出来ますが、量があって初めて質が上がり、質があって量が増えていくのです。静岡同友会2020年ビジョンの達成に向けて、海野組織拡大委員長を中心に、全県を挙げて増強に取り組みましょう。

さあ! 1200名達成記念パーティを準備しなければなりません。

藤原 博美氏（㈱日本ベルト工業・代表理事）

というテーマでバズセッションが始まりました。沖縄同友会は組織率10%と高いのですが、その陰には、代表理事が同友会の想いを伝える為に自費で飛行機に乗り、支部へ行くほどの熱い思いがあるからこそその結果でした。会員数が千名を超える事により、金融機関、行政の対応が変化する話も聞くことが出来ました。驚いた事は、各同友会により行っている事はさまざまであることです。福岡同友会のアタック25を参考にし、静岡で実施しているアタック25を紹介した時は皆さんが驚き、全員が写真を撮るほどの新たな発見の様でした。バズセッションを通し感じたのは、各県、各支部の日々の運動が積み重なり、社会へ対して大きな力になる事でした。その過程で得た経験を自社に生かすことで、自らも成長出来ている様でした。最後に、支部と事務局の足並みを揃えなくては、2020年までに1500名達成は出来ないのではと感じました。次回はもっと大勢で参加したいものです。

野川 和三氏（㈱野川商店・榛原支部）

共育ち勉強会

～社長と社員が共に育ち合うために～

8月8日(月) ペガサート 参加28名

経営者と社員が共に育ち合う土壌づくりをするために、委員会として「人を生かす経営」の勉強会を実施しています。具体的な事例をもとに、経営者が社員とどう関わっていくか、何をしていくのか、バズセッションで深めあっています。

片野浩一氏(南弥生製作所・沼津支部)の発表をもとに一時間半に及ぶバズセッションを行い「共育ちに」について熱く語り合いました。

片野氏は父親から金属加工業を引き継ぎ、弟と家族経営を長く営んできました。9年前に現工場長が入社し業績が向上し、3年前に経験者で腕の立つN君が入社して来ました。

N君は職人気質で協調性に問題がありましたが、やる気があり売りに貢献するので大事に扱ってきました。しかし徐々に我儘が出て要求が強くなり、ようやく育ってきた新人とも反目しあい、社内の雰囲気は悪くなるばかりでした。売りを落とせないので可能な限り要求に応えながら改善に努力したつもりでしたが、辞められては困るとの思いで強く指導することが出来ず、かえって増長させる結果を招いてしまいました。そして、このままではせっかく育った新人が辞めてしまう事態に至りました。

悩んでいる時に、前回1月の「共育ち勉強会」に参加し、バズでの厳しい指摘や支部の仲間からの助言をもらいました。そして、今まで売りを優先するあまりN君と真剣に向き合っていない自分を反省し、方針と決意を社員に示して「全社一丸経営」を掲げました。結果的にはN君を説得できず退社してしまい業

績は悪化しましたが、その後入社した新人も含めて全員が頑張り、しばらくして過去最高売上を達成し未来を展望できるようになりました。

このように「仕事は出来るが扱い難い社員」の事例は他人事ではなく、バズでは賛否両論が白熱し、「やる気のある社員を活かせない側に問題があるのでは」「2～3年で諦めるのは早すぎる」「今回は結果が良かったからと言って、また経験者が入れれば同じ問題が起きるのでは」等々、厳しい意見も出て活発な意見交換が出来ました。

共育委員会では30分程度で発表者が問題提起し、毎回1時間以上の充実したバズセッションを行っています。これは支部例会の参考になるのではないのでしょうか。

片野社長は「この発表で一番勉強になったのは自分です。今度N君のような社員が入っても問題に真剣に向き合い、人を生かす経営をしたい。」と決意を語ってくれました。

社員の悩みを抱えている会員は多いと思います。是非発表者に名乗りを上げてください。自分の為になる事請け合います。また、次回の大勢の参加をお待ちしています

鈴木 雅夫氏(株)ハチマル・共育委員長)

愛知中小企業家同友会 青年同友会連絡協議会 あいち報告会

「未来を創る実践力」 「15青同の英知が未来を切り拓く」

8月26日(金) Asosia ザ・ボールルームC 参加122名



会場風景

青年経営者全国交流会において報告者を務める田中孝夫氏(株)ナカヤマ・愛知同友会)が「全員参画経営」というテーマで同友会での学びを素直に実践し、

社員と共に会社の成長発展を目指して行動することで会社を変えてきた実践報告を行いました。

婿養子として入社した田中氏は、後継者としてのプレッシャーから高圧的な態度を取ってしまいます。しかし、同友会活動の中で人を生かす経営の大切さに気づき、全員参画経営を実践していきます。どうすれば

会社が強くなるのか? どうすれば会社が良くなるのか? と考え、「稲穂作りの為の土壌作り」と題し、土=基本・基礎、葉の部分=プロセス、稲穂の部分=なりたい会社と、経営に対して会社のことを社員さんがどのように思っているかを稲穂に置き換えて社内に張り出し、課題に対し全員で実行していきます。そして、稲穂に水を注ぐように社員さんに愛情を注ぎ、どうすれば同じベクトルを向いてくれるかと、考え行動している田中氏の全員参画経営の思いや、人柄がとても伝わってきました。

我々が今後、どのような経営者にならなければならないか、そして人を生かす経営をどのように解釈し実践していかなければならないのか、気づかされる報告でした。

原田 昌樹氏(株)アレミティ・静岡支部)

支部だより

富士宮例会

富士宮市の中小企業振興基本条例の今を知ろう

8月4日(木) 志ほ川 参加42名



第1部では、本市の条例に当初より携わってきた穂坂勝彦氏(㈱富士宮清掃)より、条例施行後に設置された「中小企業懇話会」の政策提

言内容の報告がありました。平成27年7月31日を皮切りに既に5回開催され、この懇話会の提言から、中小企業向け異業種団地の実現に向けての作業が進行中であるとのことでした。市役所商工振興課の渡辺信之氏からは、条例が存在することで物品購入一つをとっても市内の業者に発注しやすくなったこと、工事の入札などは市内の業者が参入しやすいようにハードルを低くでき、各部署の担当者が条例の効果を実感している旨報告がありました。

第2部では、富士宮市勤労者共済会「ハピネスふじやま」の案内が、共済会会長の河原崎信幸氏(シンコーラミ工業㈱)よりありました。わずか月額1000円の会費で、加入期間の要件なしに死亡・疾病・慶弔等の給付金が支給されることや、予防接種や人間ドックの補助、施設利用や各種イベントなど大企業並みのサービスの提供が受けられるとのことでした。従業員の福利厚生が、中小企業振興の一環であるとの認識を改めて持ちました。

山田 真実氏(山田司法書士事務所・富士宮支部)

沼津例会

心が変われば会社が変わる

8月17日(水) プラサヴェルデ402会議室 参加43名



「自分を変える事ははたして可能か」このことに挑戦した経営者、大場豪文氏(ヒデ・マネジメントオフィス)の報告を聞きました。自分

を変えたくて高額セミナーにも参加しましたが答えは得られませんでした。思い悩む時、ある方との出会いから自分を変えていく事ができたそうです。その答えは、今までの自分は感謝の思いが欠けていたことでした。その点に気付いてからは何事にも感謝の気持ちを土台として、他の人のためになりたいと思うようになり、それ以来、多くの人から相談を受けるようになったそうです。自分を変えることはできる、ということを実証された大場氏は笑顔で、輝いていました。バズセッションでは、コンサルタントに求める事について、社長が決断する事にアドバイスをできること、総合的に見てくれる人という意見、また、相談するタイミングについて等様々な感想や質問が寄せられ、学び合うことができました。

高村 巖氏(㈱アラビカコーヒー・沼津支部)

富士例会

お客様にモチテイの木を届けよう

8月18日(木) ロゼシアター 参加31名



望月紀志氏(㈱望月庭園)が報告した今月の例会は、大変勉強になりました。2014年5月に入会した後、富士支部で経営指針の成文化を学ぶ「もうかる部

会」で学んだ望月氏。自社の概要、履歴、経営理念、経営指針をまとめた発表だったのですが、その感性の素晴らしさ、隅々まで見渡す視野の広さ、前向きな姿勢、同友会で学んだことを自分のものにし挑戦していく姿、その全てにおいて「凄い」の一言です。これらは望月氏のこれまでの努力や経験によって培ったものであり、一朝一夕に身につくものではありません。自分自身しっかりとやってきたつもりだったのですが、まだまだ上には上がいる、と感じました。また、今回のように会員の報告によって覆され、反省し、見直し、改めて自社に落とし込む。新しい情報の取得とともに、同友会の良さを再認識させられる例会でした。

第二創業によって自社をもう一段上に持っていかうと限りなき挑戦をする望月氏の姿には、これからの同友会に必要な存在だと感じさせられました。私も、新しい事に挑戦していきたいと思います。

小川 敬一氏(㈱仕出し おがわ・富士支部)

同友会イントロセミナー IN 静岡

8月23日(火) 同友会事務局 参加35名

イントロセミナーが、オブザーバー7名を迎えて開催されました。先ず、簗威頼氏(㈱アサギリ)より「同友会ってどういう会？」と、オブザーバー向けに説明がありました。その後、塩見康平氏(オミ企画)の報告でした。起業して無我夢中で突っ走っているうちに経営者としての壁にぶつかり、悩んでいる時に同友会の榛原支部に入会。「第12期の経営指針を創る会」に参加し、同じ受講生仲間やスタッフの本気度にかされ、多くの“気づき”を得て、何でも屋ではなく、主軸となる三部門の事業を、自信を持って行える様になったという報告がありました。塩見氏の素朴な語り口がオブザーバーの感動を呼び、自己紹介時に入会を

発表した人が4名もいて、大成功のイントロセミナーとなりました。

池上 喜一郎氏(静岡建装品㈱・静岡支部)



塩見 康平氏

共同求人委員会

2016インターンシップキックオフセミナー 学生との交流を機に、採用・インターンを見つめる

8月29日(月) ペガサート 参加15名



同友会インターンシップに参加する学生のうち6名と、同友会会員、採用・インターンシップ担当者、大学採用担当者が一堂に会し、意見交換を行いました。

冒頭、共同求人委員長の金指忠男氏(㈱オートベル・沼津支部)が、同友会と委員会の説明に続き、採用やインターンシップの受け入れは会社を良くする活動の一環、という話をしました。続いて、伊藤崇洋氏(㈱オブジィ・榛原支部)、伏見修氏(㈱富士山ドリームビレッジ・静岡支部)、金指氏の三名が登壇。伊藤氏と伏見氏からは、脱サラから経営者になるまでの話や企業を経営するという事について、金指氏からは

大企業と中小企業の違いと中小企業ならではの魅力を、それぞれ自己の体験を元に話しました。

後半は、小グループで意見交換を行いました。同友会インターンシップへの参加を決めたきっかけの多くは採用担当者やゼミの先生の薦めであった事、企業説明のみでなく長期間で深い体験ができるインターンシップを望む声、就職を見据えて志望先を絞るのではなく様々な体験を求めて参加する学生も多い事、企業選択の目を養うために参加する学生もいる事など、具体的な意見を多く聞く事ができました。その他、「コンサルタントに興味がある」という学生が、具体的な職種や仕事についてアドバイスを受ける、という場面もあり、経営者、学生の双方にメリットのある意見交換でした。

最後に、望月敏弘氏(常葉大学短期大学部 進路支援室長)から「キャンパスという区切られた枠を飛び出して、今回のように幅広い年代、多様な人たちと触れる事こそ、インターンシップの第一歩」と、少人数ながら盛況となったこのセミナーについて感想を頂きました。

新卒採用・求人活動は、企業を見つめ改善するきっかけになります。その第一歩として、一社でも多くの方に、インターンシップに参画して頂きたいと思います。学生の参加数が増えるよう継続し働きかけていきますので、ご協力、どうぞ宜しくお願いします。

金指 忠男氏(㈱オートベル・共同求人委員長)

連載 Linkai・Bukai tsushin
委員会・部会通信

第5回

障がい者問題委員会

本年度より委員長を拝命いたしました静岡支部の伏見です。

今年度、県東部、中部、西部でそれぞれ委員会を開催し、関係各所の方々に出席して頂いて意見交換をしてきました。一番多い意見は、雇用も大事だが、まずは特別支援学校の見学に来て欲しい、また生徒の実習を受け入れて欲しい、という意見でした。同友会会員企業に呼びかけ、実習を受け入れて頂ける企業を増やしていこうと思います。会員の皆さま、ぜひ支援学校の見学会に参加し、障がい者と関わってみて下さい。障がい者に対する考え方が変わると思います。

多くの経営者団体がありますが、障がい者のことを考える経営者団体は中小企業家

同友会だけです。これは人間尊重の経営を目指し、労使見解を実践する同友会だから存在する委員会だと思います。障がい者を雇用することは「経営とは何か」「社員教育とはどうあるべきか」を考え、経営の原点に立ち返ることだと思います。

他県では障がい者から枠を広げ児童養護施設、ニートなど就労困難者にも支援の輪を広げているところもあります。

今後、少子高齢化から考えられる労働者不足に対応する為にも、障がい者をはじめとする就労困難者に関わってみませんか。

伏見 修氏(㈱富士山ドリームビレッジ・障がい者問題委員長)

お問い合わせ・参加申し込みは、同友会事務局まで! TEL:054-253-6130

1つのことで圧倒的に日本一の会社

(株)ウェッジ

代表取締役 西村 知浩氏 (富士支部)

事業内容：ゼオライト・セラミック製品の開発・製造・販売
 設立：2012年
 社員数：3人
 入会：1998年3月
 所在地：富士市永田町1-61
 URL：http://www.wed.co.jp/
 TEL：0545-55-5022

ゼオライトとの出会い

西村氏は会社を設立する前に、ゼオライト研究の第一人者で医学博士の佐藤一男氏の会社をお手伝いしていました。当時は工業系のものを動植物に応用できるかを模索しており、豚の餌への利用やガソリンの添加物にしていました。その会社を引き継いで富士で会社を設立。その時に自分の会社では人に関することでゼオライトを扱いたいと思い、豚の餌のリポートもありましたが、フェードアウトするようにお断りしたそうです。その後西村氏は、1つの目標に向かって突き進みます。

研究・開発を続けて

製品の質を高めたい！付加価値を付けて販売した

い！そう思い続けて製品開発を続けます。O157を自社の製品が吸着することや、東日本大震災で原発が被害を受けたことで流失した放射線を吸着することなど、千葉大学との研究で良い結果を得ることが出来、人の体について研究を行うようになりました。



西村 知浩氏 (左側)

同友会の学びの中で

「売り上げの10%を研究費に充てる会社はつぶれない！」同友会での講師の話に西村氏の中で10%が一つの目安になりました。売らない営業をするために(大学の研究結果が営業になる)先行投資として研究を重ねています。その先生は他にも「ニッチでトップの経営戦略」ということを教えて下さったとのこと。今やゼオライトの人への応用に関して数多くの研究をしている会社で、研究レベルは日本でトップクラスです。「ニッチでトップの経営戦略」を目標に次は世界を相手に熱く突き進んでくれると感じました。

取材・記事：渡辺 正仁氏 (丸丸之工務店・富士支部)

取材：畑中 和弘氏 (ハタナカ特急便・富士支部)

下請けから元請け そして新事業へ

(株)マルイチ

代表取締役 三輪 雅則氏 (榛原支部)

事業内容：機械設計・制作一式、鉄骨工事、各種製缶制作、新築リフォーム設計施工、オール電化・太陽光システム販売・施工
 創立：1965年
 社員数：10名
 入会：2013年9月
 所在地：榛原郡吉田町住吉5431-17
 URL：http://www.maru1.co.jp
 TEL：0548-32-0492

28歳で社長に就任

(株)マルイチは1965年から続く鉄工場です。長年の下請け体質から金額を決められ、事業の将来性に不安を感じながらも三輪氏は2002年、28歳で代表取締役に就任しました。今までと同じやり方ではダメだと思い、自ら設計を行い、製作まで一貫することでお客様に満足、信頼していただけるようにしたと語ります。

2本柱の事業へ

鉄工場だけではいけないと思い、太陽光システムの販売・施工を主とした住宅リフォーム事業を設立しました。世間に会社を知ってもらう為に、近隣のイベントなどに頻繁に出店することをはじめ、アンケートや

定期便などの送付、制服や社用車を目立つような色にするといった周知活動をしています。何気ないところでも気遣いなどでお客様に感動を与えるようにしています。



三輪 雅則氏 (中央)

同友会との出会い

40歳前まで外との付き合いもせず経営をしていましたがうまくいかない状態が続いたといいます。友人から共に経営を勉強している同友会を知り、入会しました。第11期の経営指針を創る会のメンバーで、創る会を通じいろいろと気づかされたそうです。また、とても分かりやすく、社員が一丸となって頑張っていると思える経営理念を作成しています。三輪氏は、社長が社員を幸せにしたいと思う気持ちについてきてもらうことが理想だと語ります。今後の活躍が楽しみな三輪氏だと感じました。

取材・記事：酒井 英字氏 (本橋テープ(株)・榛原支部)

取材：河内 崇文氏 (株)スマートブレイン・榛原支部
 遠藤 在氏 (Sign・榛原支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1041名

| 氏名 | 社名・事業 | 所属支部 | 紹介者 |
|------------------------------------|--|------|--------|
| 藤浪 欽也 <small>ふじなみ きん や</small> | 静岡ビジネス開発協同組合 協同組合 (外国人技能実習生の受け入れ事業) | 静岡 | 松本 保美 |
| 山岸 功宗 <small>やまがし よし ひろ</small> | 安西法律事務所 弁護士 | 静岡 | 高橋 みほ |
| 渡邊 眞 <small>わたなべ かづ ま</small> | (株)協和 建設業、卸販売 (防水工事・屋根・外柵工事、総合エクステリア資材卸販売、レンタル収納事業提案) | 静岡 | 池上 喜一郎 |
| 高橋 礼美 <small>たかはし れみ</small> | wan wan My Family ペット関係 (ペットサロン、ペットホテル、しつけ教室) | 志太 | 池原 智彦 |

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第30回

GSユアサというバッテリーメーカーの代理店をしております、静岡支部 宮澤電池産業(株)の宮澤学です。今回は宮田博文さん(尙ミヤタ印刷・静岡支部)からご指名を頂きました。宮田さんとは入会時期が近く、若葉会という新入会員の懇親会が最初の出会いでした。その後は、支部の例会や研修会、懇親会などで同席することが多くなり、昨年は例会企画委員会で一緒に活動させて頂きました。

私は三代目社長として就任5年目となりました。三代目といっても、もともと妻の実家の会社を引継ぐため婿養子となり、メーカーの東京支社で3年間勉強させてもらい、8年前に静岡に引越してきました。

最初は県内に知り合いは一人もいないという状況から始まり、仕事からみの知人は増えていくものの、日々の業務に追われながら、経営者としてこれでいいのかと考えている時に同友会に誘われ、入会させて頂きました。入会直後はあまり積極的に参加していなかったのですが、一度例会に出席した時に、年齢・性別・業種・会社規模を問わず、多くの先輩方から様々な意見や考え方を聞くことができました。また、自分なりの考えを発言することがとても刺激になり、それ以降、例会だけでなくいろいろな委員会・勉強会などに出席するようになりました。そうすることで、さらに深く込み入った話や相談をできる仲間(先輩も含めてです)ができてきたと思います。

そこで次の友達の輪は、三木清夫さん(株)ミキ・静岡支部)です。三木さんとは、歳が同じで家も近く、子供が通う小学校も一緒ということで、今では同友会だけでなく、地域活動の集まりや同じ歳の経営者仲間を紹介してもらっています。それでは三木さんよろしくをお願いします。



宮澤 学氏

宮澤 学氏 (宮澤電池産業(株)・静岡支部)

静岡県中小企業家同友会会費 口座振替のお知らせ

口座振替日/平成28年10月6日(木)

振替会費/平成28年度下期会費(平成28年10月~平成29年3月)

振替額/支部既定の通り

上記の通り、会費をご指定の口座から振替させて頂きますので、ご確認をお願い致します。

なお、領収については、通帳への記帳をもって代えさせて頂きます。

納入代行会社は「SMBCファイナンスサービス(株)」通帳印字は「SMBC(ドウユウカイ)」名で引き落としされますのでご注意ください。

銀行振込みの方には、別途請求書をお送り致します。どうぞよろしくをお願い致します。

同友会
三つの
目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。